

阿部展也 —あくなき越境者

2018年3月23日(金)～5月20日(日)

阿部展也とは何者か…戦中戦後、世界を舞台に多彩な才能を発揮した作家の全貌を紹介

新潟県出身の作家、阿部展也(あべ・のぶや 1913-1971)は、瀧口修造との詩画集『妖精の距離』(1937)により若くして一躍注目を集めました。また、雑誌にて作品と評論を旺盛に発表し、戦前の前衛写真の運動にも重要な役割を果たします。1941年からは日本軍報道部に所属し、出征先のフィリピンにてポスターや写真を手掛けるとともに多くのスケッチも残しました。

戦後は、シュルレアリスムからアンフォルメル、幾何学的抽象へと目まぐるしく画風の変転を遂げ、サンパウロ・ビエンナーレをはじめ数々の国際展への出品、持ち前の語学力を活かし国際会議に参加するなど日本国内にとどまらない活躍を果たし、晩年の10年近くをイタリアに過ごします。また、作品制作のかたわら海外の美術動向の紹介にもつとめ、その幅広い活動によって日本の美術界に影響を与え続けました。

本展では、初期から晩年にかけての主要作品に加えて関連雑誌や写真、下絵といった資料類、さらには彼が日本に紹介した海外作家を含む阿部に縁のあった作家の作品をとおして、国や地域のみならずジャンルや分野を横断し続けた越境者の足跡を多角的に紹介します。

開催概要

- | | |
|--------|--|
| 【会期】 | 2018年3月23日(金)～5月20日(日) |
| 【開館時間】 | 10:00-17:00 ※入場は16:30まで |
| 【休館日】 | 月曜日(4月30日を除く)、5月1日(火) |
| 【観覧料】 | 一般1,030(820)円、大学生720(620)円、
高校生・65歳以上510(410)円
※()内は前売りおよび30人以上の団体料金 ※中学生以下無料
※5月5日(子どもの日)は高校生以下無料 |
| 【主催】 | 広島市現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 |
| 【後援】 | 広島県、広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 |
| 【協賛】 | ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜 |

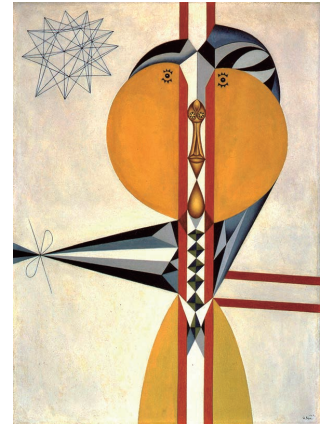
展覧会構成

第1章 出発—〈妖精の距離〉と前衛写真 1932-1941

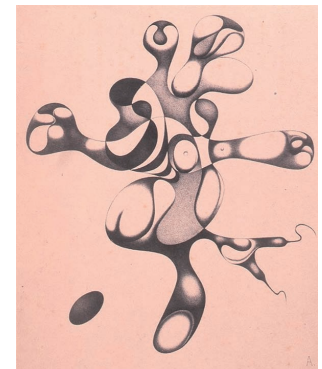
独学で絵画を学びキャリアをスタートさせた阿部芳文(展也)は、1937年、瀧口修造との詩画集『妖精の距離』の挿画により注目を浴びることとなる。写真の分野でも、他作家との協働や大陸への写真取材を通してその才能を発揮。この時期の阿部の作品は多くが戦災で消失したといわれ、残るのはわずかである。

第2章 フィリピン従軍と戦後の再出発 1941-1947

1941年から陸軍に徴用され宣伝班としてフィリピンに従軍。写真などで宣撫活動を行うなか現地で結婚し家族を得て順調に暮らすが、日本の形勢悪化により終戦前に収容所に抑留の身となる。1946年に復員しフィリピン時代に培った英語力でGHQ将校たちと交流、世界に羽ばたく足がかりとする。



《花子》1949年
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館蔵



『妖精の距離』より《風の受胎》1937年
新潟市美術館蔵



《飢え》1949年
神奈川県立近代美術館蔵



『フォトタイムス』掲載作品《夜の目》
1939年

第3章 人間像の変容—下落合のアトリエにて 1948-1957

1948年、展也（のぶや）を名乗り、新宿区下落合にアトリエを構える。翌年には再婚し、息子・娘が誕生。この時期は様々な手法を取り入れながら人間像の油彩画を多く残し、自己の表現を模索している。1953年には日本美術家連盟の代表としてインドに7ヵ月滞在し、現地で数多くの写真を撮影。以降、世界各地の風俗や建造物を独自の視点で収める。

第4章 技法の探求から「かたち」回帰へ—エンコースティックを中心に 1957-1967

1957年、第2回国際造形芸術連盟総会への出席のため欧州を訪れた後、1958-61年は半分以上の期間海外を飛び回り、作品発表のほか、画家たちとの交流を深めると同時に東欧に関心を寄せるようになる。そして1962年、単身ローマに移住。ルーチョ・フォンタナらの作家たちと親交し創作を展開、エンコースティックという技法を用い、様々な表現の可能性を追求する。

第5章 未完の「越境」 1968-1971

1967年以降、国際的な絵画表現の傾向を敏感に察知し、幾何学的な抽象絵画をアクリル絵の具で彩色する技法を用いるようになる。色と形の研究を進め、数々の平面バリエーションを生み出す一方で、1971年からは『芸術新潮』で「遙かなりイタリアの10年」の連載執筆を始め、イタリアでの業績が日本でも評価され始めた矢先、同年5月に58歳で急逝する。



《太郎》1949年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵



《作品》1968年
浜松市美術館蔵

関連プログラム

ゲストによるスペシャルトーク

日時／3月23日（金）10:30～11:30

講師／松沢寿重（新潟市美術館主幹／学芸員・本展企画者）

※事前申込不要、要覧覧会チケット

講演会「1930年代後半の美術における現実（レアル）と超現実（シュルレアール）—阿部展也を中心に—」

日時／4月14日（土）14:00～16:00

講師／五十殿利治（筑波大学名誉教授）

会場／当館内地下1階ミュージアムスタジオ

※事前申込不要、要覧覧会チケット

担当学芸員によるギャラリートーク

日時／4月7日（土）、4月30日（月・休）

いずれも14:00～15:00

※事前申込不要、要覧覧会チケット

ワークショップ「お面をつくろう」

阿部展也作品を題材としたかんたんな工作でオリジナルのお面をつくります。

日時／4月28日（土）

①11:00～12:30、②14:30～16:00

講師／COCHAE（コチャエ・遊びのデザインユニット）

対象／どなたでも参加可。小学3年生以下は要保護者同伴。

定員／各回20名

※参加無料、要事前申込

●申込方法／希望回（①または②）、氏名（参加者全員）、年齢、保護者のお名前、住所、電話番号を明記の上、当館ウェブサイト上の応募フォームまたは往復はがきでご応募ください。

※1通につき3名まで申込可。

※申込締切：4月10日（火）必着

※申込多数の場合は抽選となります。

[往復はがき送付先] 〒732-0815 広島市南区比治山公園 1-1

広島市現代美術館「阿部展也展ワークショップ」係

【同時開催】

●コレクション展 2018- I

コレクション・ハイライト+特集「女たちの行進」

2018年2月24日（土）～6月17日（日）

広島市現代美術館（学芸担当：松岡 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121（代表 ※公表用） FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

